

コロナ感染状況が全国的に落ち着いているとはいえ、有事に変わりはなく、危機管理意識の継続は欠かせません。こうした中、リーダーシップの在り方が問われています。

私も、立つ位置の関係上、さまざまな決断を求められるときがありますが、その際、コロナ前よりも基準ラインの設定や見極めに苦慮することが多いのが正直なところです。そこで「危機時におけるリーダーの条件は何か」と自問するのですが、難解です。

しかし、文藝春秋11月号の緊急座談会「危機のリーダーの条件」を読む中で、次のような内容が心に残りました。

「危機管理の要諦は『最悪を想定し、最善の努力をする』こと」

「人を動かすためには説得力を持った説明が重要で、そこにはやはり言葉が必要」

「危機管理では優先順位をつけることが何より重要」

「リーダーは、自分の内から湧き出る情熱をそのまま表現しなければなりません。」

「リーダーの最も重要な仕事は判断と決断です。情報をもとに判断し、意思決定をおこない、結果について責任を負わなければなりません。」

「人間は人生において強烈な体験をした時に、揺るぎない人生観、人間観が生まれるものだと思います。」

「危機のリーダーに必要な不可欠な要素をもう一つ挙げるとすれば、知性ですね。(中略) 知性は教養であると同時に、状況の把握能力です。自国を巡る国際情勢を、歴史観や世界観をもつて的確に分析し、どう動けばいいかを判断する能力。それこそが知性」

知性、磨きたいです！